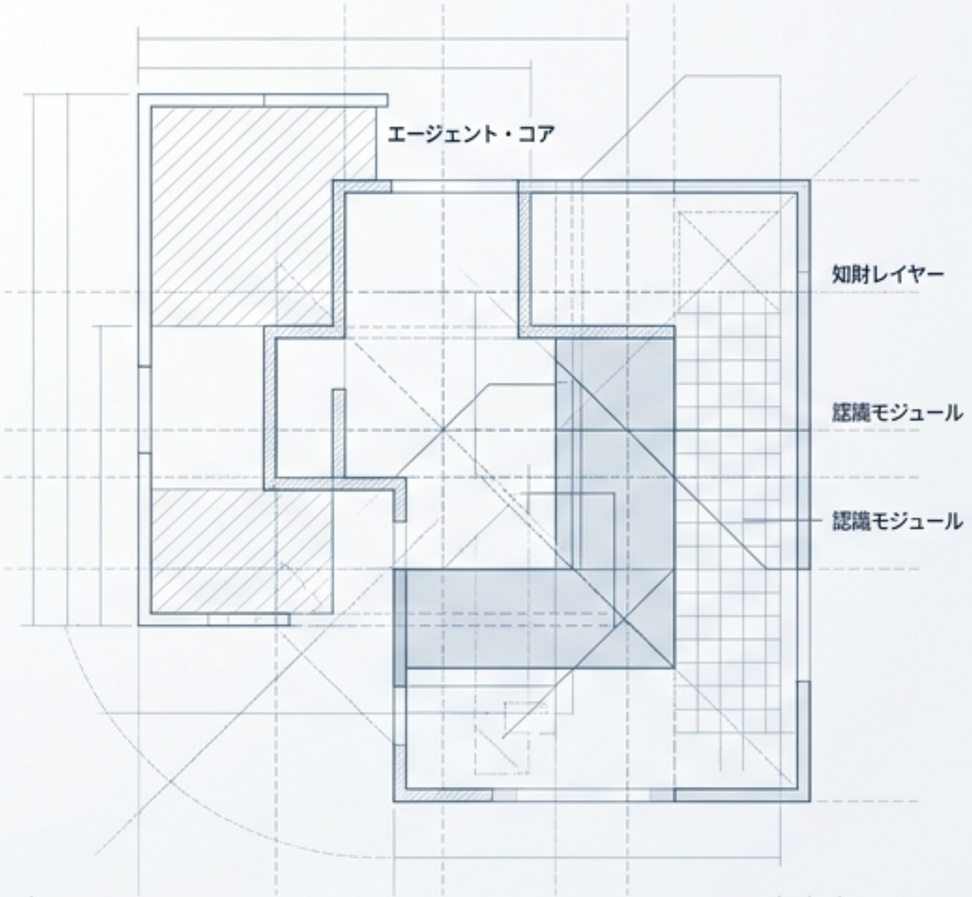


Executive Briefing: Meta「Muse Wonder」技術・知財ランドスケープ

フロンティア・エージェントスタックの フロンティア・エージェントスタックの 解剖と、自社IP戦略への影響評価

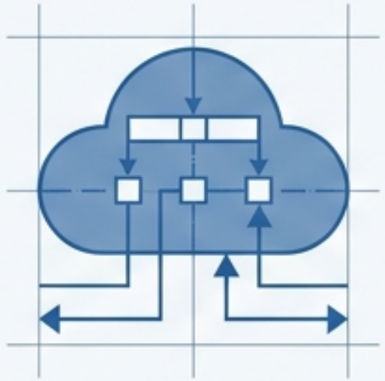
調査基準時点: 2026年10月13日
(対象発表日: 2026年10月12日)

対象モデル: Muse Wonder / Muse Wonder Full

経営層・知財戦略・R&D リーダー向け機密資料

Gemini Notebook

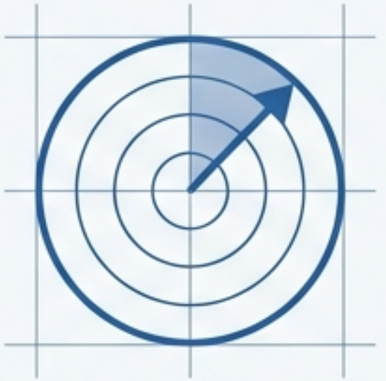
経営層が把握すべき3つの最重要インサイト



技術の真の姿

ハードウェアではなく、長時間自律処理に特化したクラウド型フロンティアAIモデル（推論コンテキスト1M）。

「単発の質問」から「エージェント・ループ（記憶・集中・PC操作）」へのパラダイムシフト。



知財リスクの所在

「MUSE WONDER」という名称の特許や商標は未確認だが、無害を意味しない。

Metaの既存XR・アシスタント特許と結びつくことで、システム全体(オーケストレーション、XR統合)にFTO (特許侵害) リスクが顕在化する。



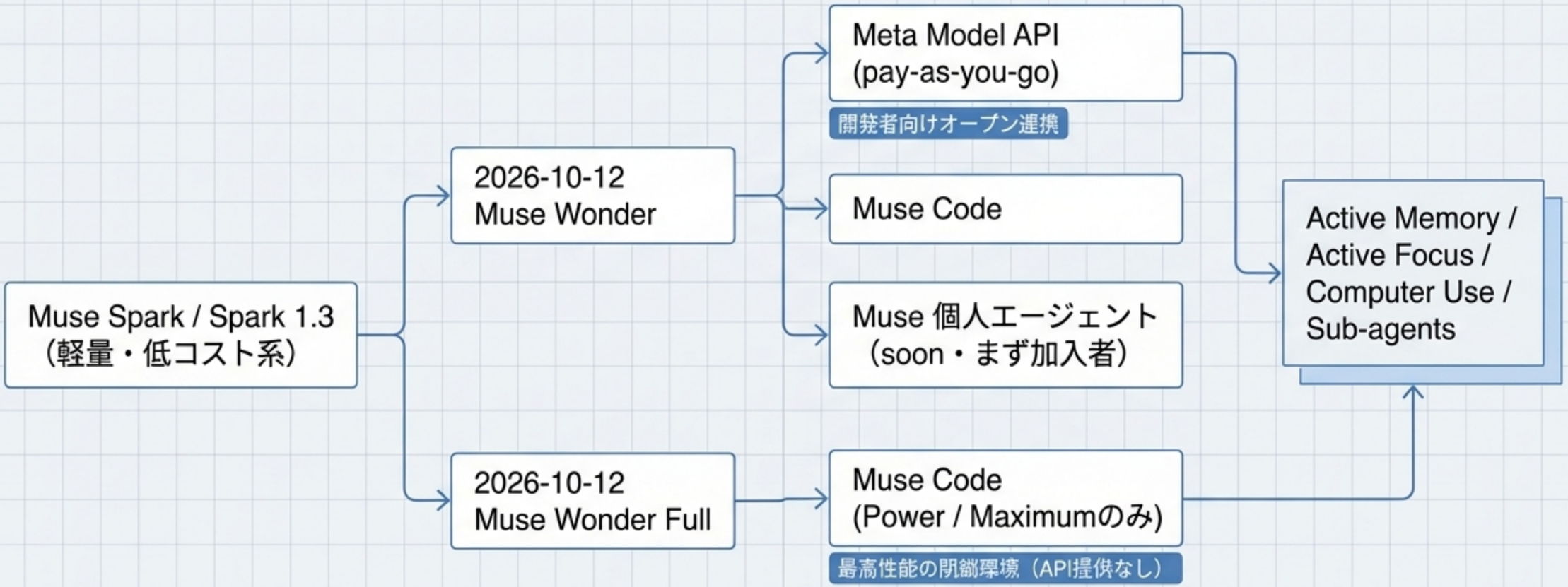
求められるアクション

「AIが記憶する」といった結果志向のクレーム出願は無意味。

記憶の更新競合解消、権限ゲートなど プロセス・状態遷移」へと知財戦略を転換し、即日の証拠保全（P0）を実施すべき。

Gemini Notebook

製品ポジショニング：「二層構造」による戦略的棲み分け



APIで大量処理を行う事業者にはWonderを、最高性能のコーディングを使う開発者にはFull（プレミアム枠）を提供する流通・ライセンスの明確な設計差。

Gemini Notebook

モデル仕様比較：エージェント機能と流通チャネルの断層

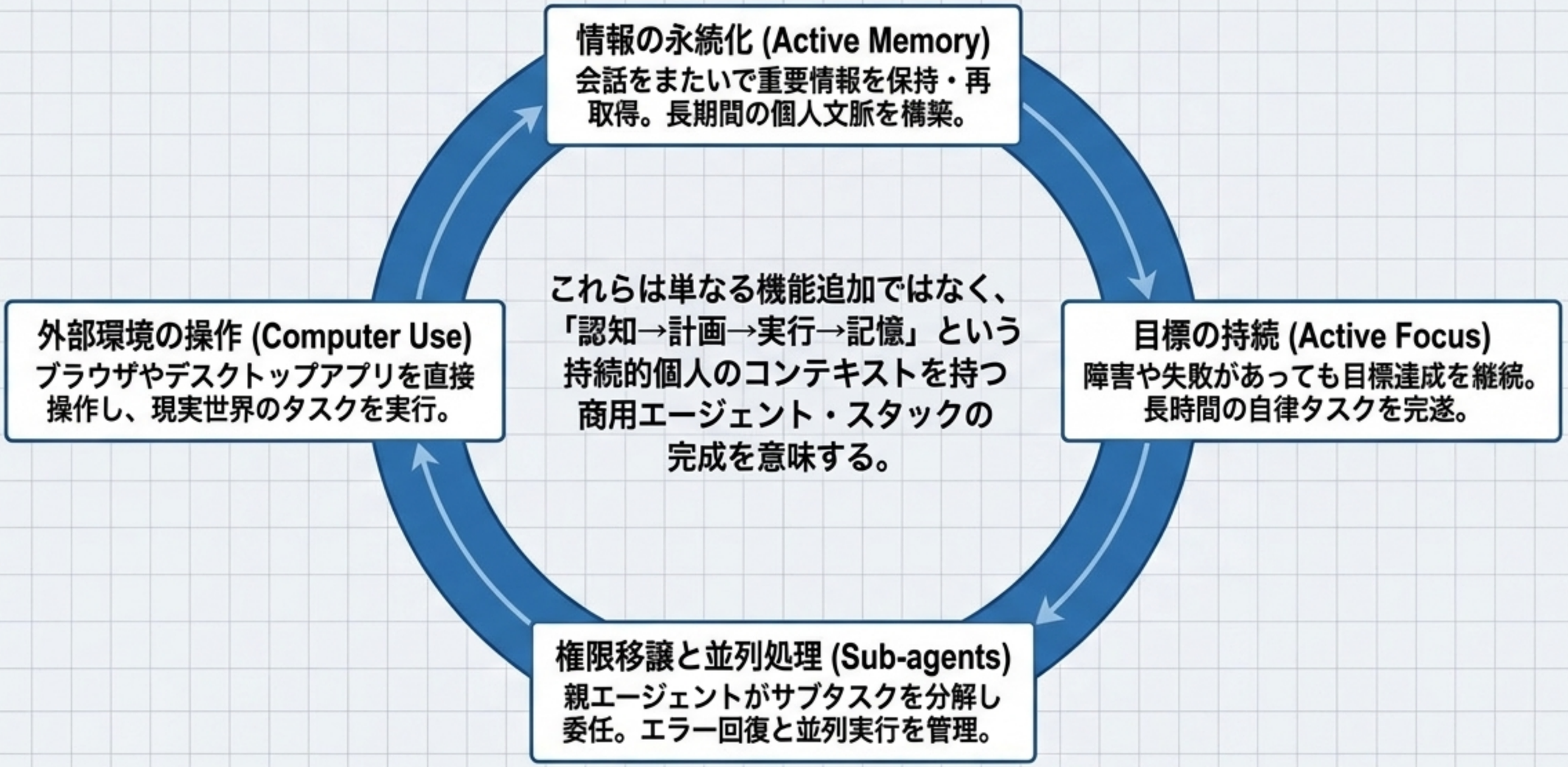
項目	Muse Wonder	Muse Wonder Full	Spark 1.3 （比較用）
入力モダリティ	text / image / video / audio	text / image / video / audio	text / image / video / document
出力モダリティ	text	text	text
コンテキスト長	1,048,576 tokens (約1M)	1,048,576 tokens (約1M)	1,048,576 tokens (約1M)
価格構造	Input $4, Cached $0.20, Output $20 / Mtok	Muse Code Power ($50/月) or Maximum ($200/月)	Input ~$1.25, Output ~$4.25 / Mtok
API提供	Meta Model API提供あり	一般APIなし (サブスクリプションのみ	

⚠ 物理デバイスではない

モデル自体はセンサーやバッテリーを持たないクラウドモデル。XR機器やPCは は外部入力ソースとして扱うべき。

Gemini Notebook

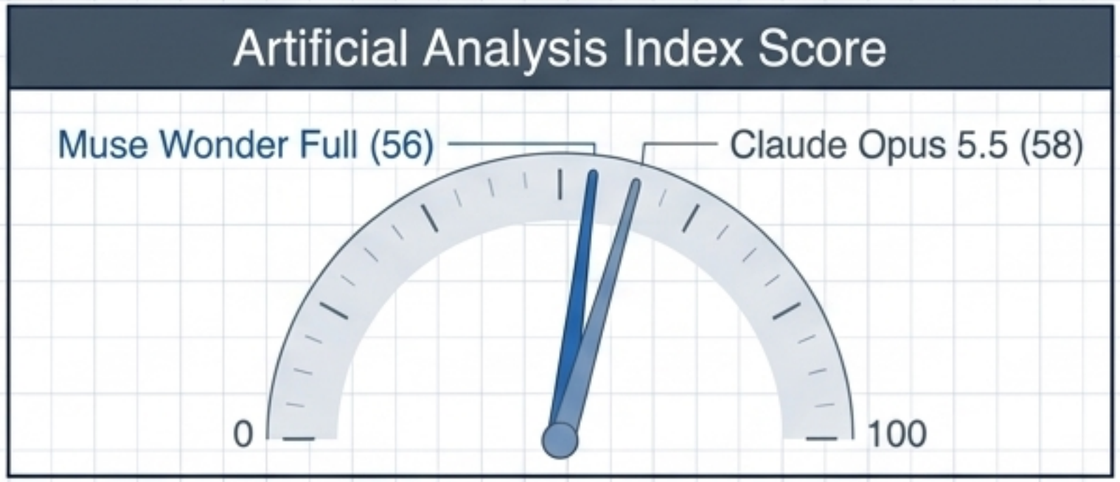
「エージェント・ファースト」の技術特性と自律処理ループ

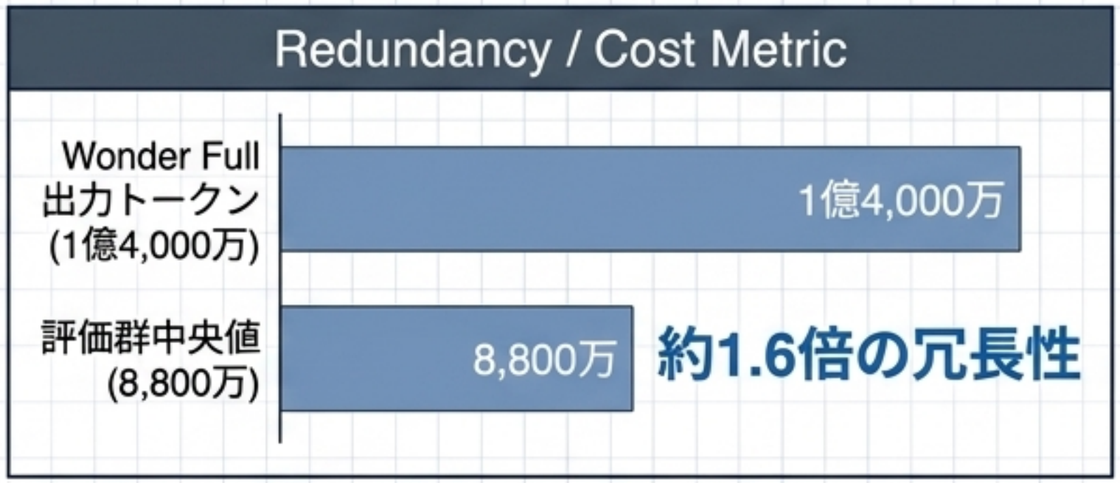


Gemini Notebook

ベンチマークの現実：SOTA（最高水準）の真の所在

指標	Wonder Full	Opus 5.5
MemoryBench	**85.6**	81.5
DeepSWE 1.1	**79.0**	74.2
ProgramBench	59.0	**70.5**
Terminal-Bench 4.0	52.0	**59.6**

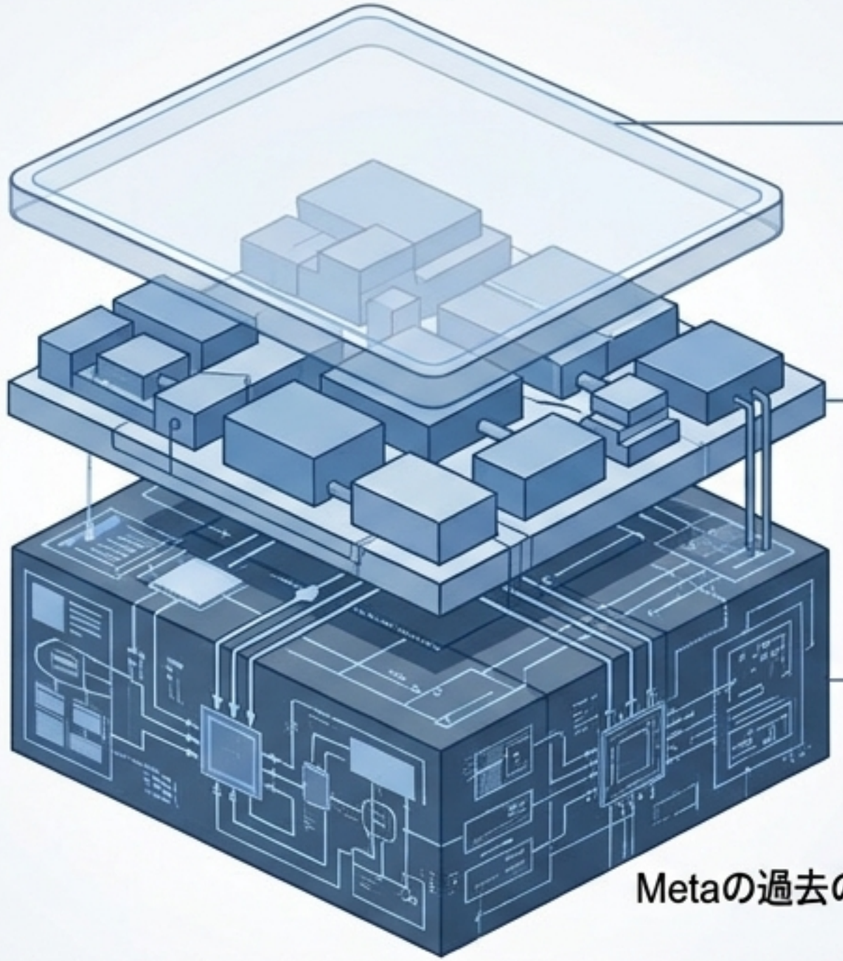




ソフトウェア開発や個人エージェント領域には極めて強いが、全指標を独占しているわけではない。
出力の「冗長性」が高く、APIコスト（$20/Mtok）の観点で事業実装には最適化が必要。

Gemini Notebook

【知財パラダイム】モデル単体から「システム全体」へのリスク移行



Muse Wonder (Base Model)

名称自体の特許・商標リスクは
初日時点では低い（安全の錯覚）。

インテグレーション層

GUI Automation /
Context Retrieval / Agent Routing

深層リスク（既存特許群）

XR Sensors / Dynamic Avatars /
Secure Boot Chiplets

Metaの過去の特許ポートフォリオと網の目のように結合する。

FTO（特許侵害リスク）評価において、単なるAPI呼び出しではなく、「ユーザー文脈の保存 → 状況に応じた抽出 → 画面認識 → アプリ操作 → 記憶更新」という周辺システムの構築プロセスに複数の特許領域が交差する。

Gemini Notebook

Metaの既存特許ポートフォリオとの危険な交差点

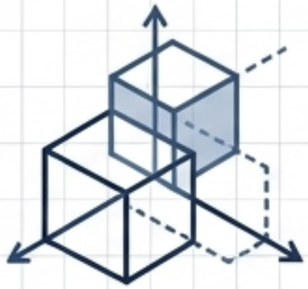
⚠ Very High Risk



US20240219720A1: Scene Analysis for HMDs

HMDセンサーから能動解析をトリガーし、MLで物体を特定・説明。 Wonderのマルチモーダル知覚・エージェント統合と直結。

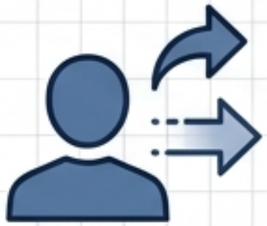
⚠ High Risk



US20230260208A1: AI-assisted Virtual Object Builder

XR空間内のAIが音声/ジェスチャーで空間を生成。未知物体からの3D生成。

⚠ High Risk



US20250218097A1: Dynamic Virtual Assistant Avatars

XRアバターを対話の入口とし、ユーザー行動・感情でアバターを動的に変化。

⚠ Medium Risk



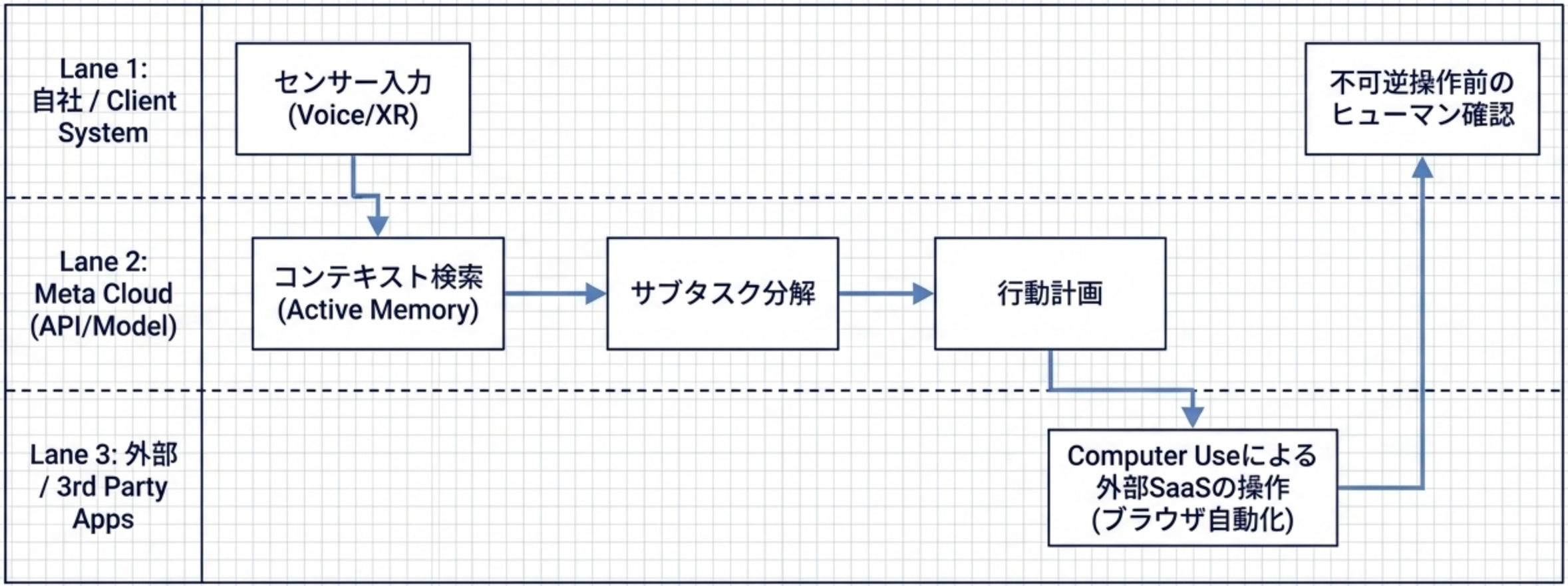
US20260050560A1: CPU Accelerators for Security

AI計算やウェイトのセキュリティ・認証に関与。

Metaは数年前から「XR + AIエージェント + センサー文脈」の出願を継続。
Wonderの実装はこれらの広範なクレームに抵触しやすい。

Gemini Notebook

クラウド型エージェントにおける分散型FTOリスク



侵害リスクは一つの主体に留まらず、「誰が・どこで・どのステップを実施するか」が分散する。競合特許監視はMetaだけでなく、Apple, Google, Microsoft, OpenAI等のポートフォリオ全般に広げる必要がある。

Gemini Notebook

自社の特許出願戦略：「結果」から「プロセス」へのパラダイムシフト

旧来のアプローチ（回避すべき弱いクレーム）

- ✕ 「AIが過去の情報を記憶する」
- ✕ 「タスクを諦めずに続ける」
- ✕ 「複数のAIエージェントを使う」

Issue: 発明の差別化点として弱く、広い先行技術に埋没する。

エージェント時代のアプローチ（強いアーキテクチャ・クレーム）

- ✓ **記憶競合の解消**
  古い情報と新しい情報が衝突した際のバージョニングと重要度スコア（Memory tiering）。
- ✓ **不可逆操作のゲート**
  Private文脈を外部ツールに渡す前のポリシーゲートや、アクション実行前の権限確認機構。
- ✓ **サブエージェント管理**
  並列変更時の衝突検知（Collision detection）と失敗時のロールバック手法。

Gemini Notebook

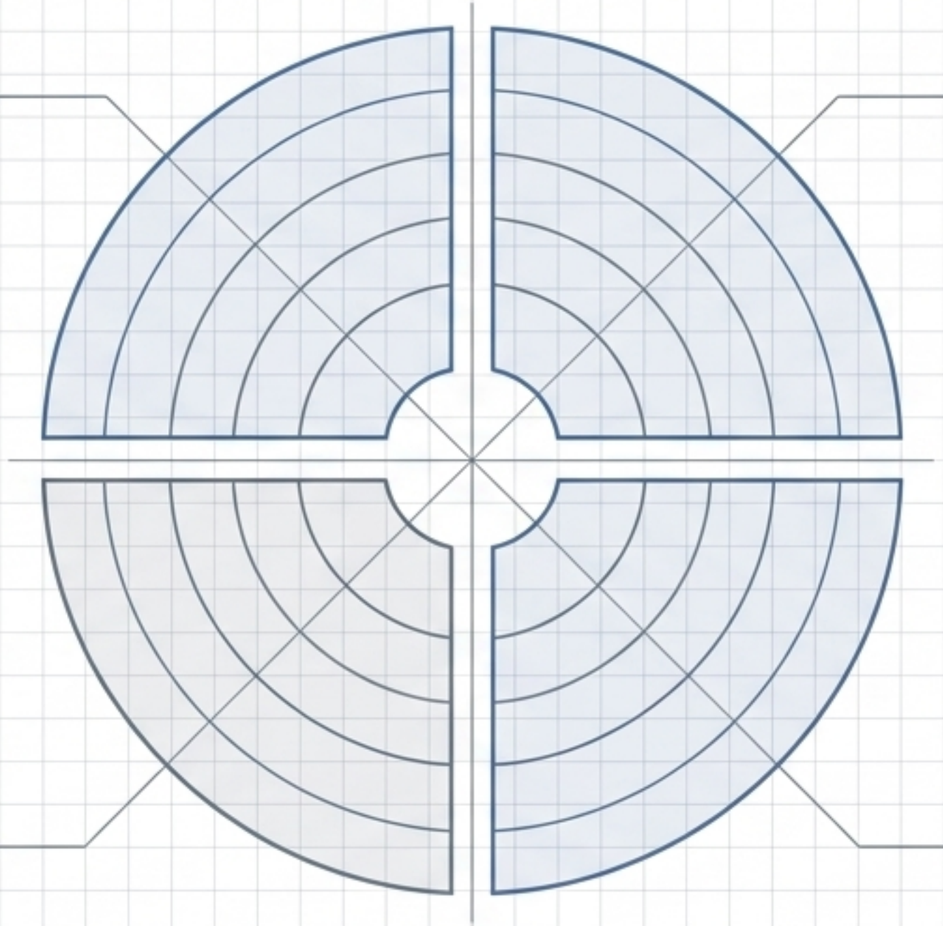
多角的な知財防御網（Holistic IP Defense）

ライセンス監査 (Licenses)

OpenAI/Anthropic SDK互換は権利付与ではない。Meta Model API TermsやComputer-use対象サイトの個別レビューが必要。

営業秘密 (Trade Secrets)

パラメータやコーパスが非公開なのと同様、自社もルーティング閾値、リワード設計、セキュリティルールは秘匿化を推奨。



意匠・デザイン権 (Design Patents)

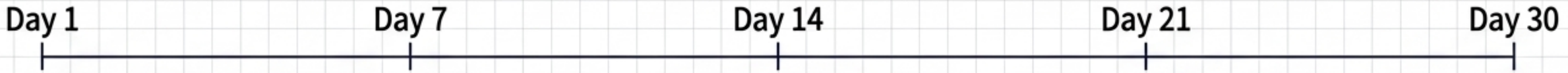
エージェントのタスク進行UI、記憶の可視化、動的アバター等の特徴的なGUIは各国で意匠保護を検討。

特許 (Utility Patents)

システムアーキテクチャや安全制御ループに特化したプロセス指向の出願。

Gemini Notebook

推奨アクションプラン：フェーズ1（即時〜30日以内）



P0 (即日〜7日) : 発表証拠の保全

Model Card, API docs, Pricing, Demo動画をタイムスタンプ付きで保存（後日の仕様変更に備える）。

P0 (即日〜週次) : Meta特許のピンポイント監視

Meta Platforms, Inc. のAI/ML, XR, HMD領域における継続・分割出願の追跡。

P0 (1~2週間): Feature-level FTOの開始

モデル名ではなく、Persistent memory, Computer use, Sub-agent等の機能単位でのクリアランス調査。

P0 (7~30日): 商標クリアランス

MUSE WONDER, ACTIVE MEMORY等のUSPTO, WIPO, EUIPO再検索。

Gemini Notebook

中長期アクションと早期警戒指標（Early Warning Signals）

中長期アクション（P1〜P2 / 四半期）

- ☐ 自社 Invention Harvesting (2〜6週) : Memory updateやprivacy gatingについて発明面談を実施し優先日を確保。
- ☐ 製品・API差分ウォッチ (月次) : Muse Wonder 1.0後継、FullのAPI解禁、ウェイト公開の監視。
- ☐ 規制ウォッチ (四半期) : EU等のGPAI/エージェント規制へのMetaの対応書類を確認。

⚠ 訴訟リスクの早期警戒指標（ウォッチ対象）

- Metaの継続出願による「Memory retrieval + Tool execution」の独立クレーム化。
- 大手プラットフォームによるAIエージェント操作を明示的に制限する利用規約の変更。
- ベンチマークデータやSDK互換性を巡る著作権・ライセンス紛争の発生。

結論: Muse Wonderの知財上の意味は「新しいLLMの登場」ではない。
長期記憶・目標追跡・個人コンテキストを統合した商用エージェント・スタックの完成であり、知財戦略もシステム全体へのシフトが急務である。

Gemini Notebook